



海のたより



8月蒲郡マリンカップレース
Rクラス総合優勝ブーメラン

目次	行事予定
表紙 マリンカップ優勝ブーメラン	
P 2 7月ナイト優勝記ホーネット	8月18日 理事長杯レース申込締切
P 3 7月ナイト、各艇のコメント	8月25日 理事長杯ヨットレース
P 4 年間成績(中間)	蒲郡市水源地交流事業・体験乗船
P 5 マリンカップ優勝記ブーメラン	9月15日 佐久島レース
P 6 マリンカップ優勝記ハニービー	9月22日 デニスコーナーカップ
P 7 全日本ミドルボート参加レポート	9月29日 スモールレース
P 8 40周年、400号記念行事、記念ロゴ等	

ナイトレース参戦記（優勝記？）

ホーネット 多田

参加されてた皆様には申し訳ありませんが・・・結果は、優勝させて頂きました。申し訳ありません。

「何で優勝??？」って、参加された方は、充分ご承知のことでしょうが、コース選択だけでした。

豊橋潮流ブイの後に、野島に行く時計周りか生田に行く反時計回りを選択するかってことですが、、今回は、スタート後に多数決で決めました。乗員4名（中村・石原・十八日・多田）で協議して、と言っても、明確に意思表示した

のは 中村・多田 の2名だけ、、でも2人の意見は一致してました。

単純に、安定してスピラン出来る生田に先に行っちゃえ〜美味しいものは早く食べないと、人に取られちゃう〜（単に、貧乏人の習性です。）・・・野島からの暗く狭い水道をスピランで4人で見張りしながら行くのは・・・ジャイブが絡みそうだしヤダナー！生田からの上りをタックタックもイヤダシ

4人では少しでも楽なコースを選びミスが減らしたい

豊橋潮流ブイを通過後に、みんな野島に向かっている〜みんなと一緒に走った方が楽しくない？って佐久島の手前でチョット心が揺らぎ、野島に向けましたが、その時にはもうスピラン出来ない位置になってました。・・・結果的には、これが大正解！！（もし野島に向けてたら？）

佐久の北側に、ムチャクチャ明るい光を出してる船が停泊してて「何だ、ありゃ〜〜!?」とか言いながら下側を通過したら、保安庁の「S」ラインが見えて「なーんだ、保安庁か、、」って、でも、いつもは三河湾内では見かけない船でした。（税金使って何やってたんでしょうか。）

そんなこんなドラマが生田まででも有ったんですが、生田に到着して初ジャイブ。

マア 少人数（4名）にしては、そこそこのジャイブでしたが、一色までスピランでは行けなかったんでジブアップして一色をジャイブ回航。

その後、野島へ行った艇と、どこでミーティングするか??出来れば、角石より西側で〜〜〜って願っていたんですが、願いが叶わず、佐久を過ぎて大井の沖、角石手前でスピランを揚げてるアルミスと遭遇し、その後にジブで帆走してるダンシングと・・・アレ?西側の遠くにはオデッセイ?? 10分遅れでスターしたベベにも篠島師崎間でミーティングしました。この時には、コース選択が間違いだったかも!って思いました。

でもまあ、あきらめず野島を回航タックし豊橋潮流ブイへ上りレグへ・・・

まだ暗いうちでしたレース艇らしきものとミーティング。当方が先行しているがどの艇かは判りませんでした。内心は“アルミスで!!!”って虫の良いことを思いながら・・・正面に蒲郡航路ブイが見えていますが豊橋潮流ブイは目視ではイマイチ見つかりませんでした。

オットット蒲郡ブイの大大手前でした。明けて来たところですよ「ヨットが前方にいる!」って、、、、アア時計回りの艇にやられちゃったか、、、、いや待てよ、前方のヨット渥美方面に向いてるヨ!・・・ってことはレース艇 じゃない、良かった。



空も明けて見つけにくい豊橋ブイをようやく確認、回航でない初のタックをしてブイに向ける。野島組を抑えてトップ回航、その後、は・・・レース結果の通りです。

今回は、タック・ジャイブがほとんど有りませんでした。（もちろん、マーク回航に伴うものは有りました。）ほとんどのレグを、ほぼ一直線で走れた結果だったんでしょうね、、、、きっと。（楽なコース=実走距離も短くて済んだ）今回はタマタマ選択したコースが当たり、結果良かったのですね。たった4人でも参加して良かったです。これで前期優勝できました。

来月からの後期もぜひ優勝目指して頑張りますので、宜しくお願いします。

7月三河湾周航(ナイト)レース 各艇コメント

ホーネット

スタート後すぐに野島へ行くか生田へ行くかの打ち合わせが始まりました。乗員 4 人、多数決で生田に決定。でも途中、佐久の手前でやっぱり皆と一緒に走ろうか・・・って野島へ向けたけどその時はすでにスピンの野島へ向けることが出来ない位置になっていました。

生田までは風も振れてジャイブもせぜ一本で到着、ジャイブして生田回航一色へ。途中ジブアップ一色をジャイブ回航角石に向かいました。スピンのアルミスとは角石の手前で、そしてダンシング、オデッセイ、バベとミーティング。野島へもクローズで上りきり回航のタック、スターボーリングで蒲郡ブイに到着、ワンタックで豊橋マークに到着。回航タックで蒲郡へ、結果論ですがコース選択の勝利でした。



アルミス

スタートから先行して豊橋潮流ブイに向かう。豊橋潮流ブイからのコース選択に迷うが、追手を苦手としているアルミスは風の有る間に距離を稼ぎたく思い野島に向かう。結局、ホーネットは生田鼻ブイに向かい、他の 4 艇は野島に向かう。ホーネットと午前 1 時 45 分に知多ナポリ前ですれ違う。その後も 6~7m の東の風が続き、次にホーネットとミートしたのは佐久島の東側で午前 3 時 42 分であった。残念ながらホーネットに 4 分先行されていた。明るくなりハーバー前で風が落ちたが午前 5 時台にフィニッシュ、40 マイル弱を 6 時間と言う早い展開で、風に恵まれて楽しいレースであった。



ダンシングビーンズ

準備不足でスタートラインに戻るのが遅れ追う形になってしまった。

風が落ちて南に振れるのを予想、なるべく潮に乗りたい為右回りのコースを選択したが予想に反しフィニッシュ直前まで東の良い風が続いて失敗した。



ベベ

バベのコースは野島回りを選びました。野島までは快調でしたが野島を回ったら前に誰も居ませんでした。

後半戦は風も弱くなりレーティングの低い船には不利になり残念でした。

オデッセイ

オデッセイチームは痛恨のリタイアとなりました。これも全て日頃の心掛けが悪かったせいにはなりません。なにしろ船をかえたばかり、まずは艇の状態を把握してナイトレースに臨むべきことは当然のことです。

にもかかわらず、オデッセイチームは前週に練習も点検もせずに佐久島へ遊びに行っただけでなく、島でナンパして(これが難破につながった!?)、大切な点検の時間を失うことに。準備できたことは、灯火の点検のみでした。

トラブルの発端となったジャイブの失敗はとにかく、夜間のトラブルは見えないことによるリスクがより大きな問題を引き起こすことを思い知らされました。

今回は前艇の装備の引越しのため、やっと当日夜に積み込んだボースンチェアに助けられました。



2013年度 MCC年間レース成績表

2013 MCCレース委員会

レース名		前 期												前期 総合	後 期												後期 総合		年間総合 (上位7レーストータル)			出 艇 回 数
		4月ボートレース			春のチャンピオンレース			MCCカップレース			三河湾周航レース				8月ボートレース 理事長杯			佐久島レース			秋のチャンピオンレース			11月ボートレース								
ファーストホーム		アルミス/ホーネット			アルミス/ホーネット			ダンシングビーンズ			ホーネット																					
優 勝		ホーネット			ホーネット			ベベ			ホーネット																					
艇名	TYPE	Rm	順位	得点	累計	順位	得点	累計	順位	得点	累計	順位	得点	累計	順位	得点	累計	順位	得点	累計	順位	得点	累計	順位	得点	累計	順位	艇名	累計	順位		
ホーネット	SEAM31		1	20.25	20.3	1	20.25	40.5	4	17	57.5	1	20.25	77.75	1	A	0	77.8	A	0	77.8	A	0	77.8	A	0	77.8	0.00	1	ホーネット	77.75	1
アルミスV	J/V9.6		2	19	19.0	2	19	38.0	5	16	54.0	2	19	73.00	2	A	0	73.0	A	0	73.0	A	0	73.0	A	0	73.0	0.00	1	アルミスV	73.00	2
ベベⅢ	PION9		A	0	0.0	3	18	18.0	1	20.25	38.3	4	17	55.25	3	A	0	55.3	A	0	55.3	A	0	55.3	A	0	55.3	0.00	1	ベベⅢ	55.25	3
ダンシングビーンズⅢ	SEAM31		A	0	0.0	A	0	0.0	2	19	19.0	3	18	37.00	4	A	0	37.0	A	0	37.0	A	0	37.0	A	0	37.0	0.00	1	ダンシングビーンズⅢ	37.00	4
スーパーウェーブ	SLOT31		A	0	0.0	4	17	17.0	7	14	31.0	A	0	31.00	5	A	0	31.0	A	0	31.0	A	0	31.0	A	0	31.0	0.00	1	スーパーウェーブ	31.00	5
オデッセイ	SEAM31		A	0	0.0	A	0	0.0	6	15	15.0	DNF	10	25.00	6	A	0	25.0	A	0	25.0	A	0	25.0	A	0	25.0	0.00	1	オデッセイ	25.00	6
ランナーⅡ	YAM30S		A	0	0.0	A	0	0.0	3	18	18.0	A	0	18.00	7	A	0	18.0	A	0	18.0	A	0	18.0	A	0	18.0	0.00	1	ランナーⅡ	18.00	7
アネックスV	First36.7		A	0	0.0	5	16	16.0	A	0	16.0	A	0	16.00	8	A	0	16.0	A	0	16.0	A	0	16.0	A	0	16.0	0.00	1	アネックスV	16.00	8
セレスティヌ	SEAM31		A	0	0.0	6	15	15.0	A	0	15.0	A	0	15.00	9	A	0	15.0	A	0	15.0	A	0	15.0	A	0	15.0	0.00	1	セレスティヌ	15.00	9
ルートルス	SLOT31		A	0	0.0	A	0	0.0	8	13	13.0	A	0	13.00	10	A	0	13.0	A	0	13.0	A	0	13.0	A	0	13.0	0.00	1	ルートルス	13.00	10
うらなみ区	J92		A	0	0.0	A	0	0.0	A	0	0.0	A	0	0.00	11	A	0	0.0	A	0	0.0	A	0	0.0	A	0	0.0	0.00	1	うらなみ区	0.00	11
ガメラⅢ	SWING31		A	0	0.0	A	0	0.0	A	0	0.0	A	0	0.00	11	A	0	0.0	A	0	0.0	A	0	0.0	A	0	0.0	0.00	1	ガメラⅢ	0.00	11
スモール		合計		4月		5月		6月		マリンカップ		8月		9月		10月		11月														
		得点 順位		順位 得点		順位 得点		順位 得点		順位 得点		順位 得点		順位 得点		順位 得点		順位 得点														
はやぶさ	Far727		36	1	3	8	1	10.3	2	9	2	9																				
ハニービー	YAM23		29	2	1	10			C	8	1	10																				
あや	YAM21S		19	3	2	9			1	10.3																						
バイキング	X79		7	4	4	7																										
ホープ	YAM21C		0																													
メーベ	YAM23		0																													
出 艇 数		2		6		8		5		21																		0		21		

- | | | | | |
|---------------|--------------|---------------|---------------|----------------------------------|
| 年間総合優勝 : | (蒲郡市長杯、ミール杯) | ポイントレース総合優勝 : | (市川カップ) | 1 : コミッティ艇がレース不参加の場合4位の得点を与えC表示。 |
| 準優勝 : | (市川杯) | チャンピオンS総合優勝 : | (スフレターカップ) | 2 : チャンピオンレースの得点は2レースの総合成績による。 |
| 第3位 : | (西尾クリニック杯) | 敢闘賞 : | (LC会長杯) | 3 : 敢闘賞は4レース以上参加艇の中から選定される。 |
| 前期総合優勝 : | ホーネット (飾舵輪) | MCCカップ優勝 : | ベベ (MCCカップ) | 4 : A表示は不参加艇、非登録艇は除外。 |
| 後期総合優勝 : | (飾アンカー) | 三河湾周航レース優勝 : | ホーネット (チタカップ) | |
| 最多ファーストホーム賞 : | (トロフィー) | 佐久島レース優勝 : | (東海カップ) | |

蒲郡マリンカップRクラス総合優勝

Boomerang Sailing Team 大森

3年ぶりの「蒲郡マリンカップ」。

特に今年からMCCへ加入した事もあり、「積極的に参加しよう」と沢田オーナー同意気込んで申し込みましたが、沢田オーナーは残念ながらアルバイトが見つからず留守番のためドタキャン。結局メンバーは、山内さん、小林さん、山本君、和香奈ちゃん、ゲストの藤岡さんと大森の6名、「今日は風も弱そうなので少ない方がラッキーかも」。

ミーティング（BOOMERANG チーム出港後の恒例行事）を行った後、スタートまでの時間で、まずは風向チェック。大島までの真ん中の海域と左海面を走ってみて、「何処からスタートしようか？」の相談。風が弱く所々パフが入ってくる、パフは拾いたいし大島の影響は受けたく無いし・・・。結局多数決で、リミットマーク寄りのスタートに決定！

いよいよ予告信号、ゼノアを揚げてスタートラインにアプローチ。スタートラインを走ると凡そ 90 秒ほど。リミットマークをタックで返し、艇団の一番風下でアプローチしていたチェスナットの更に風下でポジションを決める。スタートまで後 20 秒「風下エリアはフリーだ」スピードにのって余裕のジャストスタート、「オール・フェアだ」。

大島東沖にある「馬の背沖のブイ」を避けて外回りするコースのため、暫くはスタボード・タックを伸ばす。相変わらずライトな風でパフとラルの繰り返した、『高さよりスピード』『他艇の上り角度は意識しない』を心掛け、微妙なヒールアングルを保ちながら我慢・我慢のセーリング。

ところが「馬の背沖のブイ」を大きく避けて暫くすると、徐々にリフトの風が入ってくる。スタート時のヘディングは 165° ~170° が、200° 近くまでシフトしてきた。リミットマーク寄りからスタートしたのが仇になり、これでは「馬の背沖のブイ」をキリキリ近くを回った艇に先行されてしまう、「もうリフトの風は要らない」ヘダーを祈りつつ苦しい展開になってきた。

いよいよ上マークの潮流ブイが射程距離に入ってきた。が今のフォーメーションでは、どう頑張ってもオデッセイ、ケーニッヒの後ろを通らなければならない。一瞬のヘダーをチャンスにタックしたが、やはり2艇とも大きく前を通られた。ポートタックでレイラインまで走り、上手くいけばスタボードタックで前を通過できるかも・・・微かな期待。艇の上では上マーク回航の綿密な打ち合わせが始まる。いくら風が弱くてもこのメンバーでは全日本ミドルボートのような阿吽の呼吸では済まない。

いよいよ上マーク、「やった、C1クラスの3艇を含めると4番手だ。」「・・・!? 上マークをクロックで回ろうとしてくる艇ががが・・・」。「スターボー」と一発牽制後、ジェネカー揚げゼノアを降ろし即ジャイブに帆走指示書の再確認と大忙し。後続艇はスピンランで追いかけて来る、BOOMERANG はジェネカーで上り角にはまだまだ余裕がある。スピードを保ちつつ徐々に「馬の背沖のブイ」へ向ける。「馬の背沖のブイ」を越えればフィニッシュラインは更に風上にあるため、ジェネカーの得意な角度で走れる。

後はリミットマークめがけて一直線。20分前にスタートしたC1クラスにも大分追いつき、R2クラスを振り切って見事フィニッシュ。

軽風のコンディションとクルーを6名に留めた（本当はクルーが集まらなかった）事が功を奏し、フリーで大型艇に走り負けなかったのが勝因だと思います。これを機会に来年も連覇に挑戦したいと想いますので宜しくお願いします。



MCC海のたよ8月号・MCC海のたよ8月号・MCC海のたよ8月号

マリンカップCクラス総合優勝

ハニービー 多田



ワ〜〜〜やったね！もしかして、総合優勝も??!!! ゴールした時にはみんなで期待しちゃたんですが・・・世の中甘くない。

今年から、マリンカップはスモールの年間成績の対象（自分も当日知って、ビックリ!）なのに

スモールの常連参加艇は“はやぶさ”と“ハニービー”の2艇だけだって・・・でも、今回は同型艇の“キャロル”もいるし、時間差スタートで先行艇有利になる可能性も有り!!

“キャロル”とは、隔年でクラス優勝を分け合ってる艇で、去年は勝ったってことは??? そんなの関係ありませ〜ん!!

今回“ハニービー”には、「アッコちゃん」「しのぶちゃん」の（最強）オリジナルメンバーに、鳥居さんと自分（多田）の4名で乗艇しました。ホントは、北河さんも乗艇するはずだったのに・・・いつの間にか、“はやぶさ”に乗ってました。（なぜ???）マ〜〜ア、敵に塩を送るのは上杉謙信の時代からのことで、楽しくレースする為には、それなりの相手も必要だ!!（勝った時には、言っちゃいます。いや、勝ったから、言えます。）

1~2mの風の予報が、レース海面に行ったらそこそこの風、スタートまでに4人で作戦会議した結果、「大島寄りのコースが一番いい風吹いてる」って結論になりました。作戦どおり本部船側よりスタート・・・でも、スタートの時は“はやぶさ”が上側に・・・って同じ作戦か???

スタート後に“はやぶさ”よりチョット先行できたんで即タッキング・・・オットトト“はやぶさ”も同時にタッキングしている!! そりゃ無いでしょ〜〜と言っても相手も同じ作戦なら仕方ないかって、オヤッ? “はやぶさ”が再度タッキングして東側へ、“キャロル”はスタートしてから東側の海面へ一直線。

さて、この作戦の結果は??? 我々が太島の手前でタックしてみると、、、やったね! 先行できている。後続艇との距離は充分! このまま、上マークまで、相手を抑えれば楽勝、、、でもこの時の、防戦体制が裏目? もう少し太島に寄ってさらによい風を受けていれば・・・後続スタートの艇も皆東へ一直線でしたのもしかして総合優勝も? (冒険ですが)

マーク回航後のスピニアップは、ジャイブしても良い様にスピンをパウパルピットにセットしてマーク回航、回航後にジャイブしてポールセット→スピニアップしたんですが・・・アレレレ、スピンバッグと一緒に揚がって行っちゃった〜〜そりゃ無いでしょ〜〜

セットする前にスピンバッグのシャックルの動きを直したのにー（って言っても現実には・・・）パウに行って、スピンバッグが落ちちゃわない様持って、、、でも、ハリヤードは誰が???

そこは、オリジナルクルーの機転の良さで上手くカバーして、それなりにスピニアップ。

ダウンウインドも、太島寄りのコースを選択して、後続艇との距離も充分、これなら!!

ゴールの手前では風が10度くらい振れる〜、後続艇は、もっと風が落ちて・・・って甘〜〜〜い!

後続艇には良い風が入っていました。

レース後の、バーベキュー・じゃんけん大会は、例年通り楽しませていただきました。ありがとうございました。皆さんと、楽しい時間を共有できたことに感謝します。



2013全日本ミドルボートに参加して HORNET 正木 宏



海の日を含む7月の3連休、昨年に引き続き全日本ミドルボート選手権に参加した。ホーネットは、今回もMCCの方々に応援いただき参加したが、8名の内5名はホーネット以外のメンバーとなり、昨年以上にMCC混成チームの色合いが濃くなった。メンバーは、バウから順に①多田(H) ②都築(ベベ) ③榊原(ホープ) ④稲垣(アルミス) ⑤佐々木(アルミス) ⑥川前(ルー トリス) ⑦高橋(H) ⑧正木(H)。7月とはいえ15ノットを超える風も吹くことも予想され、制限体重を考慮すると8人の乗艇が必要であったが、何とか確保できた。

レース本番。西寄りの順風の中1レース目がスタート、一発でオールフェア。我が艇も1線でフリーウオーターを確保するが、間もなく上艇、下艇に先行される。早目にタックを返し位置を確保しながらレーティングの高い艇にどうにかついていく。1上マークは集団の中でのせめぎ合い。2上に向かう時、右(北)に振れているなどと思うと、真黒な雲と吹き下ろしが来て風向が北に変わる。既に上マークを回航しスピンを揚げていた先行艇がブローで苦しむ中、我々は上マークを即ジャイブ、スピンを揚げずアビームで下マークを目指す。突風への対処が冷静にできて丁度真ん中でフィニッシュ。

強風は治まって第2レース。スタートは悪くないが、右へ返した艇団にドーンと行かれてしまう。振れに気付くのが遅く対処もできない。走りも今一つで遅れる一方。1下までドンケツでクラリスを抜くのが精一杯。気を取り直し第3レース。真ん中辺りでグッドスタート。先行艇にもどうにかついていき、風が弱まる中、2下へのスピンランで少し抜くことができる。

1日目の3レースをクラス成績3位、11位、3位で終え12艇中5位。早くも捨てレースを作ってしまったが、何とかやれるという感触を掴む。1日目は寝る前にメモをしておいたので、このようにレース毎の内容を振り返ることができたが、2日目はその日の4レースの区別がつかなくなり、3日目もその延長となってしまう。

天気予報では3日間とも曇り、降水確率40%であった。日本海に前線が停滞、本州の南には高気圧という気圧配置でなぜか西～北西の風、10～20ノット、大気が不安定なためか、25ノット超の突風が吹き込むこともあった。3日間とも同じような気象状況の中でレースが行われた。

レース結果を見ると、総合、クラスともぎりぎり半分に食い込め、昨年よりも少し順位を上げることができた。クラス5位に入れればという自分の思いには一歩及ばなかったものの、大きなミスはなかったためこの順位を得られたと思う。ただし、同クラスでの1位獲得数などレース結果からすると1位～3位艇と我々とは実力差があるようだ。

今回のレースを経験して、走らせ方について、ボートスピードがなくては話にならないが、その次に大事なのはスタート(その後暫くの走らせ方も含めて)とマーク回航だと感じた。

スタートは、小型艇のクラリス(YAM-31festa)は下狙い、ブーメラン(J/92)は上狙いであったようだが、優先すべきはスタート後のフレッシュの確保であり、そのためにスタート前、他艇との関係で遅れないように位置を確保しに行く。2～3レースは失敗してしまった。

そして、上・下マークアプローチと回航テクニックは全体レベルから見て、もっと上達する必要があると反省した。艇団の中で、他艇の動きを読んで有利な位置取りができるようにしないと、艇団には追いついていても、回航後不利な位置を強いられることになり、修正時間にも響いてくる。

また、15ノットを超えるようなとき、ジャイブでスピンのステーに絡まることがあった。舵の取り方にも影響していると思うので今後よく練習しておきたい。

レース中はボートスピードに気を配りながら、次々と訪れる局面を判断し対処していると、あっという間にフィニッシュラインを迎える。これを次々と繰り返す集中力と体力が要求される。スタートでの集中。コース選択の読み。ミーティングやマーク回航での駆け引き。クルーの息を合わせてのタックやスピンアップ・ジャイブ・ダウン。しんどいと言えばしんどいが、ヨットレースをとことん楽しむことができた。

今年もまたこの大会に参加できてヨットレースを堪能した。レースの企画、運営に携われた方々、参加艇、ホーネットメンバーに昨年以上に感謝したい。

全日本ミドルは、どうか手の届くレベルの中で楽しむこともでき、参加・体験する値打ちは十分ある。今後、MCCの皆さんの参加が広がることを期待したい。



MCC40周年、MCCたよみ400号記念行事について

400号記念コメント募集

今回が399号。次回が記念の400号です。と言っても特段の企画ができていません。そこで皆さんにお願いします。各艇、各人、各役員から40年、400号を振り返っての一言をお願いします。8月末日までにぜひお願いいたします。写真等の添付も歓迎です。カラー印刷も検討中です。

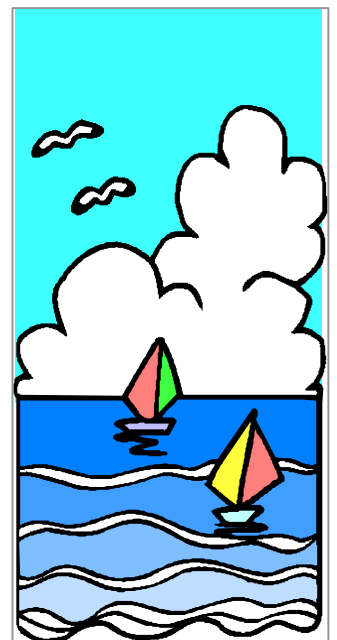
記念ロゴ



記念ロゴは7月レース後のミーティングで決まりました。どのように使うかはこれからです。アイデアをお願いします。当日の意見では大旗、小旗、ステッカー、Tシャツ、バンダナ、ワッペン、バッチ、アイロンステッカー、クリアファイルが提案されました。

MCC40周年記念事業・蒲郡市水源地交流事業協賛・ヨット体験乗船の協力

開催日	8月25日（海陽ヨットハーバー理事長杯ヨットレースの前に実施）
対象	新城市鳳来地区の家族60名
ヨット	10-12艇、1艇に6人程度分乗、レースに参加しない艇にも協力依頼する。
日程	9時-9時半 理事長杯ヨットレース艇長会議 9時半 体験乗船、乗船割り振り等打合せ。 子供用ライフジャケット貸与 10時-11時半 体験乗船、ヨットハーバーから三河大島間で実施 基本的には各艇長に任せる。別紙資料用意 12時 理事長杯ヨットレース、スタート（予定） スタートはクラブハウス前海面、 体験乗船者は陸上からスタートを見学する。 体験乗船者はスタート後に昼食自由行動。13時半駐車場集合。 ヨットレースは通常より短いコースを予定します。 14時半 理事長杯レース表彰式 15時半 MCCレースアフターパーティー、蒲郡荘で実施。



体験乗船協力艇は9時半には栈橋に係留ください。
栈橋が混雑します。体験乗船協力艇を優先します。ご協力ください。
飲食物は各自用意ください。賠償保険、搭乗者保険加入艇をお願いします。
レース参加乗員が多い場合は陸上待機させてください。
15時半からの蒲郡荘でのアフターパーティーは無料参加できます。蒲郡荘ではお風呂も利用できます。
荒天時には体験乗船は中止し別行事に振替えられます。